



2018 年度 サーティフィケート授与

スーパー連携大学院コンソーシアム web ニュース
2019 年 4 月 1 日

●2018 年度サーティフィケート授与

2018 年度サーティフィケートは、「イノベーション修士サーティフィケート」を 5 名に、所属大学の修了式に合わせ授与いたしました。

本プログラム開講 8 年間で受講生 68 名となり、「イノベーション修士サーティフィケート」を 24 名、「イノベーション博士候補サーティフィケート」を 9 名、「イノベーション博士サーティフィケート」を 2 名が取得しています。

イノベーション修士サーティフィケート取得の 5 名に、受講しての感想を書きいただきました。

イノベーション修士サーティフィケート

北見工業大学 工学研究科 機械工学専攻	近藤 一輝
電気通信大学 情報理工学研究科 情報学専攻	米井 瑞杜
電気通信大学 情報理工学研究科 機械知能システム学専攻	松原 弘明
電気通信大学 情報理工学研究科 情報学専攻	山本 有里佳
秋田県立大学 システム科学技術研究科 電子情報システム学専攻	石井 佑哉

近藤 一輝さん

スーパー連携大学院プログラムで印象に残っていることは、他専攻の分野を幅広く学べることです。

私は医療機器の開発に携わりたいという夢があり、そのために研究室配属直前まで就職活動をしていました。しかし、より高度な知識を学んでからでも遅くはないと考え、大学院の進学を決めました。そして進学後に大学の先生からスーパー連携大学院プログラムを勧められ、専攻科目以外で自分の興味のある分野を学ぶことができ、自分の夢の実現に生かせそうなので、受講しました。

最も印象に残っている講義は、電気通信大学の「IT 最前線」と「ロボット機構制御特論」です。

「IT 最前線」では、毎回違う講師の方から、IoT や AI について学ぶことができました。有名企業の方も講師に来ていて、最新の知識がどう活用されているのか学ぶことができとても有意義でした。

「ロボット機構制御特論」では、筋電義手の研究をされている先生の講義で、自分の関心も高い分野だったので面白かったです。また、自分の考えた医療機器についてプレゼンするという機会もあり、自分の将来の仕事をイメージできてとても楽しかったです。



北見工業大学 近藤一輝さん

このスーパー連携大学院を通して、自分の専攻以外の分野も学べたことはとても有意義でした。北見工大でも AI や画像認識など、他専攻の分野にも関係してくる研究は取り組んでいるので、研究内容に近いことを仕事にしたい、という大学院生もいるかと思います。自分の将来のために幅広く勉強したいという方に、このプログラムはお勧めしたいです。ただし、自分の大学の特論や研究もやらなければならない、さらにインターンシップや他大学に行って特論に参加したりするなど、スケジュール管理が大変になってくるのも事実です。やるからには覚悟を持ってやる必要があると思います。

ただ、しっかりとやっていたら、大学の事務の方やスーパー連携大学院コンソーシアムの方は、相談に対して親身になって対応してくださいました。また、自分は研究との両立も考え、他大学院の先生に相談して、授業の録画を見てレポートを提出するオンデマンド受講を中心に行き単位を取りました。もし不安だったり、履修に際して不都合が生じた時は、しっかりとその旨相談すれば、コンソーシアムや学校の事務の方がサポートしてくれるのも、このプログラムのメリットだと思います。

最後に、自分は博士前期課程修了だったので大学院生活は2年間でしたが、この2年間は自分の人生で最も濃い時間を過ごせたと思います。大学院に進むと研究漬け、というイメージを自分も持っていましたが、やり方によってプライベートも充実させ、自分の夢に向かって進めることを実感しました。スーパー連携大学院プログラムはその大きな手助けをしてくれたので、意欲のある後輩の方は取り組んでもらえると嬉しいです。

米井 瑞杜さん

このたびは、イノベーション修士サーティフィケートを無事に取得することができ、とても嬉しく思っています。

私は、大学院から電気通信大学に入学し、高校1年生から大学4年生相当までの7年間は岡山県にある工業高等専門学校で勉強をしていました。そこでは、入学から卒業までクラスメイトは変わらず、当時の私は岡山県の片田舎で自らの趣味趣向と近い人とだけ接する生活をしていました。そのため、大学院では自らとは異なる考えや経験を持った人々と出会いたいと考え、全国の大学生やそれら地域の人々を知ることのできるスーパー連携大学院の講義に魅力を感じて参加を決意しました。

スーパー連携大学院のプログラムの受講は、通常の大学院の講義に加えて複数の講義を受講する必要があるため大変な一面もありました。しかし、本プログラムの講義を通して、それまで私が知り得なかった知識や考え方に触れることができ、とても楽しく受講することができました。特に、室蘭工業大学で行われた社長の講話では、世界トップクラスの鉄鋼会社の副社長と対面でお話をさせていただく機会があり、世界で戦う企業を経営する人の考え方や理念を直接聞くことができたことは私の大切な財産となりました。

さらに、その経験をきっかけとして、私は日本国内の人々だけではなく世界中の人々に会いたいと感じるようになり、大学院在学を1年間伸ばして計3年の間にイギリス、アメリカ、メキシコへ留学に行きました。留学中は、自ら思っていることや感じたことをきちんと伝えることができないことやそれまで自分が常識だと思っていたことが日本の外では常識ではないことなど、様々な問題があったためとても苦労しました。しかし、色々な国の人々と交流をする中でそれまで漠然と捉えていた自分の人生をしっかりと考えることができ、自らの人生の目標を見つけることができました。



電気通信大学 米井瑞杜さん

このように、私の人生はスーパー連携大学院での経験を起点として、大きな転換を迎えたように思います。人生の転換点や様々な気づきを与えていただいたスーパー連携大学院のプログラムにはとても感謝しています。本当に3年間お世話になりました、そしてありがとうございました。

松原 弘明さん

スーパー連携大学院では、全国各地の大学の講義を受講し、自分の専門分野や他の様々な分野の講義を映像を通して学びました。各大学毎にそれぞれの地域に根差した特色があり、とても興味深かったです。また、集合教育では富山、大分へは現地に何度も行き、他大学の学生さんや社長さん、教職員の皆様と交流を深めました。どちらも旅行でまた行きたいです。

私は4月から電通大に残り、博士号取得を目指して研究を進めていきます。来年度からは電通大、農工大、外語大の西東京の国立三大学が共同で新たに開講する『共同サステナビリティ研究専攻』へと進学し、第1期生として世界に羽ばたいて行きたいです。これからの時代、世界は今よりもっと複雑化し、1人の人間が理解できるスピードをずっと超えて技術が進化していくでしょう。しかし、貧困や格差といった人類の歴史の中で昔から問題となっていることは、程度の差こそあれ現代でも残っているにもかかわらず、AIやロボット、量子コンピュータなどの新しい技術は人類をより豊かに、幸福にするためではなく、企業や金持ちが利益を生み出すために使われている印象を受けます。科学や技術の発展が人類を必ずしも幸福にはしてきませんでした。私は世界が抱える問題の中でも、人間が生きていくのに必要不可欠な食糧の不足を是正するため、全世界的な食品ロス問題を物流や天候のビッグデータ解析を用いて解決していくことを目指し研究を進めて行くつもりです。

スーパー連携大学院には引き続きお世話になりますが、今スーパー連携大学院を考えている人達に向けて、今いる大学や研究室だけでなく、狭い分野や場所で研究・勉強するのではなく、外の世界の様々な人々と交流して行くことで、自分の研究や知見を高めて行くことが出来るかもしれません。普通に自分の大学だけで研究や授業を受けるよりは大変だと思いますが、そのような場としてスーパー連携大学院を活用していく人が増えれば良いと思います。

山本 有里佳さん

スーパー連携大学院プログラムを受ける中で、私は視野を少し広げることが出来たのではないかと感じています。特に「起業」について考え方が変わりました。プログラムを受ける前までは、自分で起業するといったことは全く考えていませんでしたが、「現役社長の講話」での講義で実際に社長として働かれている方々のお話を聞いたことや、「ベンチャービジネス論」の講義で、起業するに於ける支援制度やビジネスプランを練るにあたっての考慮すべき事柄等を学んだことで、将来的に起業す



電気通信大学 松原弘明さん



電気通信大学 山本有里佳さん

るという道を選択するのも面白いかもしれないと思うようになりました。

また、現在の自分の専攻やコースから外れた講義を聴くことも、勉強になりましたし面白かったです。「ロジカルシンキング入門・実践講座」の講義では、分析の仕方や思考法といった内容の講義はあまり受けたことがなかったので新鮮で面白かったですし、社会に出た後でも活用できることだと感じたので、受講してよかったなあと思っています。集合教育では、他の大学の生徒さんたちとお話する機会も多く、各大学での生活の様子等を聞くことが出来たことも面白かったです。

スーパー連携大学院プログラムへの参加のため、受講する科目数等が増えて大変なことあるかと思いますが、その分貴重な体験が出来たのではないかなと感じています。将来、どの事柄が何に繋がるのかはわからないと思うので、このプログラムで体験したことが、私や他の受講生の方も含めて何かのきっかけになればいいなあと思っています。

石井 佑哉さん

スーパー連携大学院プログラムを通して他大学の講義を受講することで、所属大学では学べないことを学ぶことができました。

特に、ITC 関連の企業で働くエンジニアの方から最先端の技術と志についての講演を聞くことができる「IT 最前線」や、各大学に赴いて現地の企業の現役の社長さんから様々な話を聞ける「現役社長の講話」はとても自分の人生のためになったのではないかと感じています。

最後に後輩に一言メッセージですが、スーパー連携大学院プログラムに参加することで、幅広い視野を持つことができ、就職活動でも有利に働くとお思います。研究活動と講義の受講で忙しいとは思いますが単位互換制度等を上手く利用して頑張ってください。



秋田県立大学 石井佑哉さん

